

【What's 類型】 参照：「令和2年度版 とっとり ICT 活用ハンドブック」 鳥取県教育委員会

今回の類型は…「B4」です。「B4」は主にアウトプットとなる場面です。今までは紙媒体で行っていたことです。試行錯誤が簡単なため、児童の意識が持続するのが特徴です。ただし、たくさんの機能がありすぎて本質からはずれないような見届けが必要です。図は文部科学省の「学びのイノベーション事業」実証研究報告書を引用。

ここが
POINT

画像を組み合わせでデジタルリーフレットをつくったり、学校紹介資料をつくったりする。

- ・他者とネットワークを介して資料を共有して、この表現から、他者とのコラボレーションによる表現へと広がっていくきっかけにもなる。

▶ B4：表現・制作



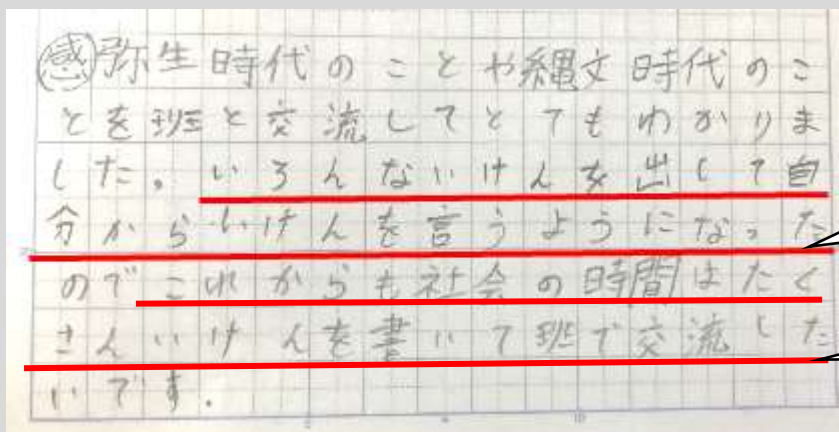
マルチメディアを用いた資料、作品の制作

《ICT！（いまこそ、チェックタイム）》

- Word や PowerPoint で文章やプレゼン資料をつくることができる。
- 複数の児童で変種出来るように、metamojiclassroom でグループ共有が設定できる。
- 画面共有（ミラーリング）や画像転送（Airdrop）などを使うことができる。
- 文章やプレ・資料など共同編集する場面を授業の中に設定できる。

【After☆ICT 活用実践紹介】

ICT 活用通信No.5で紹介した実践（metamojiclassroom のグループ機能を活用）を受けた児童の感想です。



自分から主体的に話し合いに参加することができた。

次回の交流にも意欲的

【岡田のおもいつ記】

新コーナー「After☆ICT 活用実践紹介」は ICT を活用したその後を紹介します。今回の児童のように今までのグループ交流では、なかなか自分の意見を言えなかった児童でも、グループの共有のノートに書き込むということはハードルが低くなるのかもしれませんが、そこには「書くことが楽しいから。」という新しい技術だからこその感覚かもしれませんが、この児童にとって「自分から意見を言うようになった」という事実が大切です。その事実が「新しい技術が楽しい」ではなく、「自分の意見を伝えることが楽しい」に移行していけるとよいと考えます。そのためにも児童が機器・機能になれるように要所要所で活用していくことが大切です。